

新聞新報

2005年(平成17年)8月23日 火曜日

宮城県沖地震

M7級「数回発生も」

「8・16」を
東北大分析

政府想定と別の見解

東北大学の長谷川昭教授は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

東北大学の長谷川昭教授は「マケニチュード(M)」は22日開かれた地震予知連絡会で、近い将来発生が確実視されている宮城県沖地震には、複数のタイプがあるとの見解を明らかにした。従来考えられてきた

特に、余震の発生領域から推測する「震源域」をみると、東西に並ぶ36、37年の震源域を合わせれば78年の震源域とほぼ範囲が一致することから、「宮城県沖地震が36、37年の地震の2回に分かれて起きた可能性が

政府の地震調査委員会
は、16日の地震は想定されていた宮城県沖地震より規模が小さく、震源域の場所も南東にずれていることから、「想定地震とは別物」との見方を示していた。